

かんわケア病棟における 遺族調査

【目的】

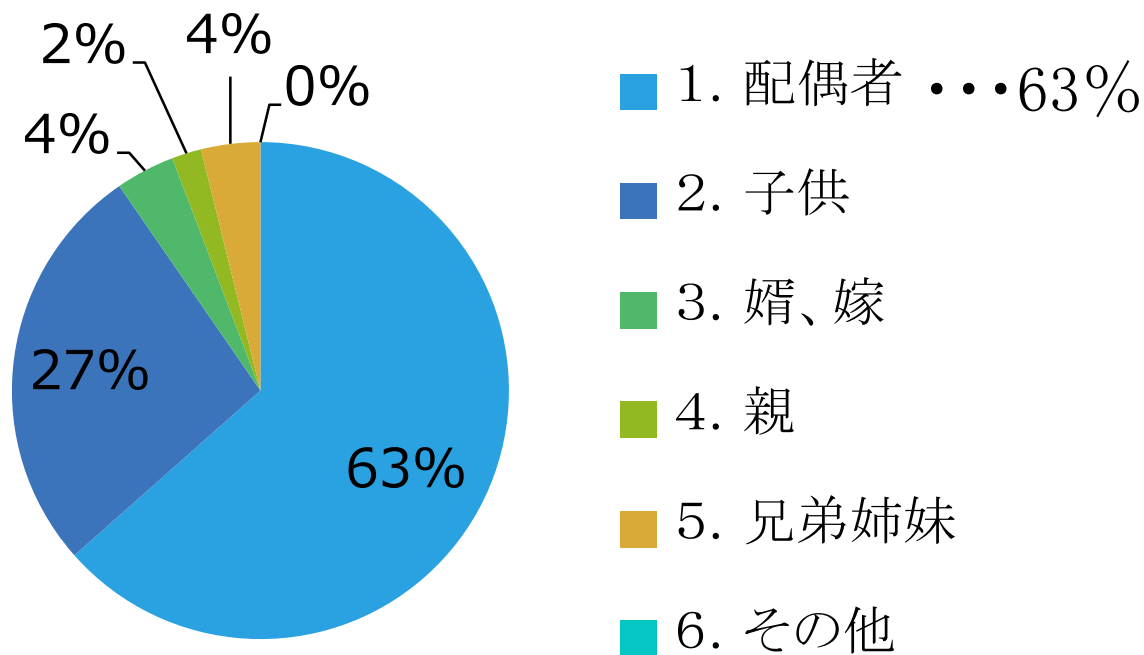
2014年1月にかんわケア病棟が開設され4年が経過しました。ご遺族に当院のかんわケア病棟におけるケアの質を確認し、ケア全体の方向性を再考すること、遺族の悲嘆の背景を知り、遺族会の必要性についても検討する事を目的としました。

【方法】

- 対象者：平成27年4月から28年3月までに亡くなった患者さんのご遺族100名にアンケートによる調査を行いました。
- アンケート収集期間：平成29年11月10日～平成29年12月19日
- 倫理的配慮：調査は自由意志とし、不利益を被らないことを保障し、アンケート終了後は速やかにアンケート用紙を処分することを保障しました。

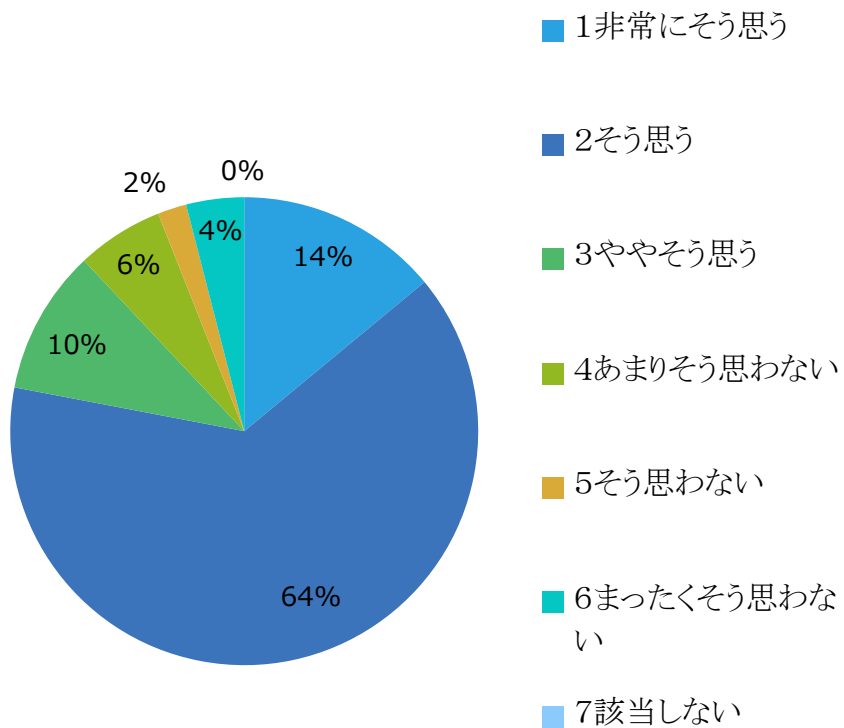
【アンケートを受けられた遺族の方の背景】

- アンケートの回収率は53%でした。
- 男性25%、女性75%で、アンケートの返信をしていただいたご遺族の平均年齢は、64歳でした。
- 患者さんにご遺族の関係は以下のグラフの通りです。

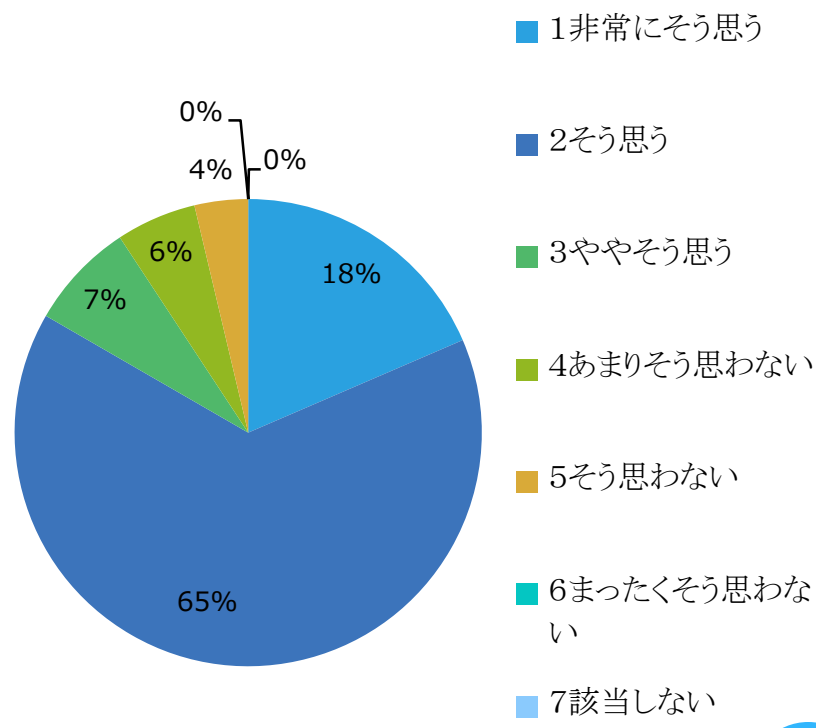


【患者さんがしんどくなったとき、1か月以内に受けた医療の評價】

医師は、患者さんの苦痛を和らげるように努めていたか？

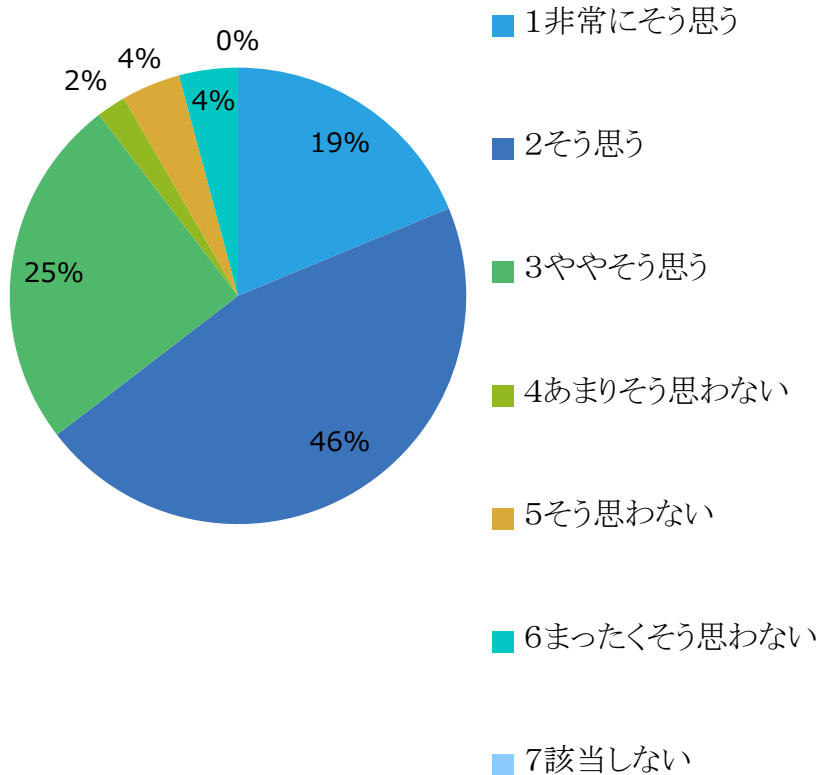


看護師は、患者さんの苦痛を和らげるように努めていたか？

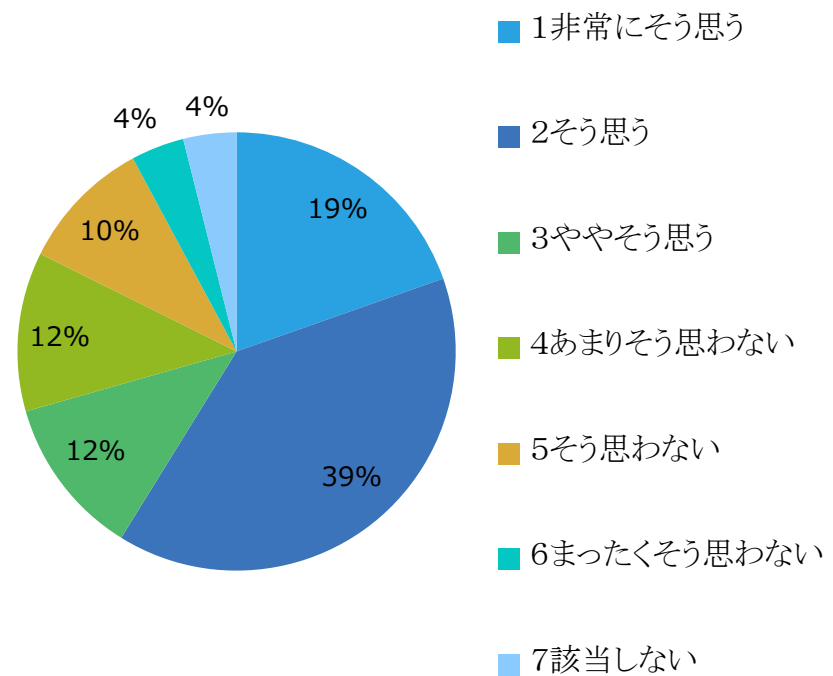


【患者さんが亡くなられた1か月以内に受けた医療の評価】

患者さんの不安や心配を和らげるように医師・看護師・スタッフは務めていたか？

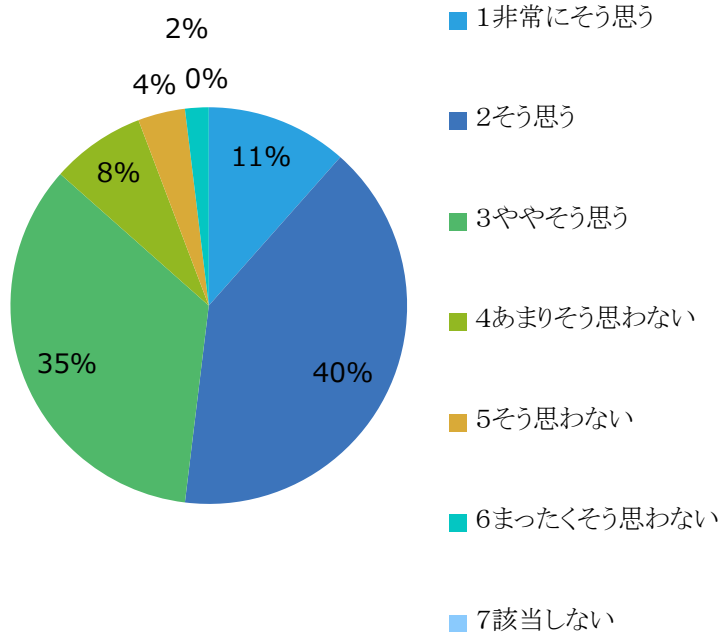


医師の患者さんへの病状や治療内容の説明は十分だったか？

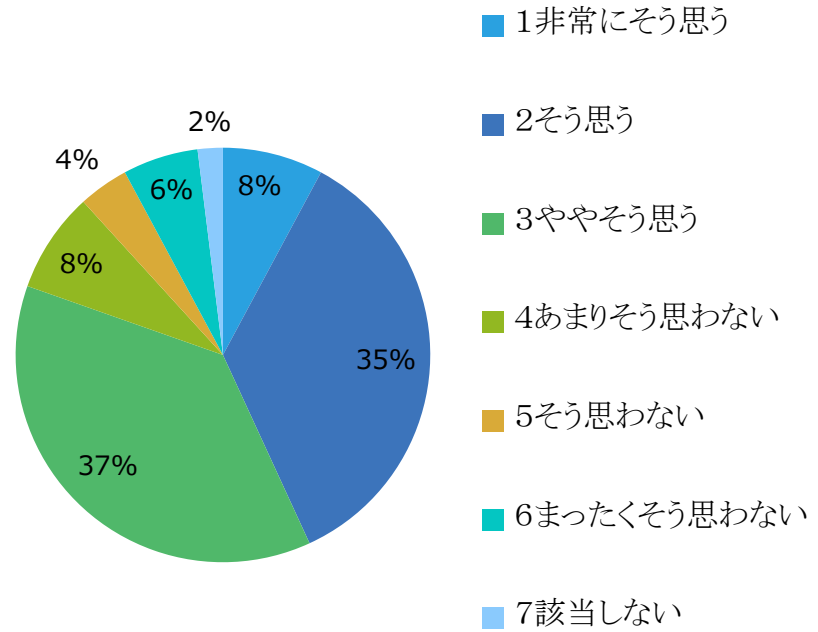


【患者さんが亡くなられた1か月以内に受けた医療の評価】

病室や生活しやすく
快適だったか？

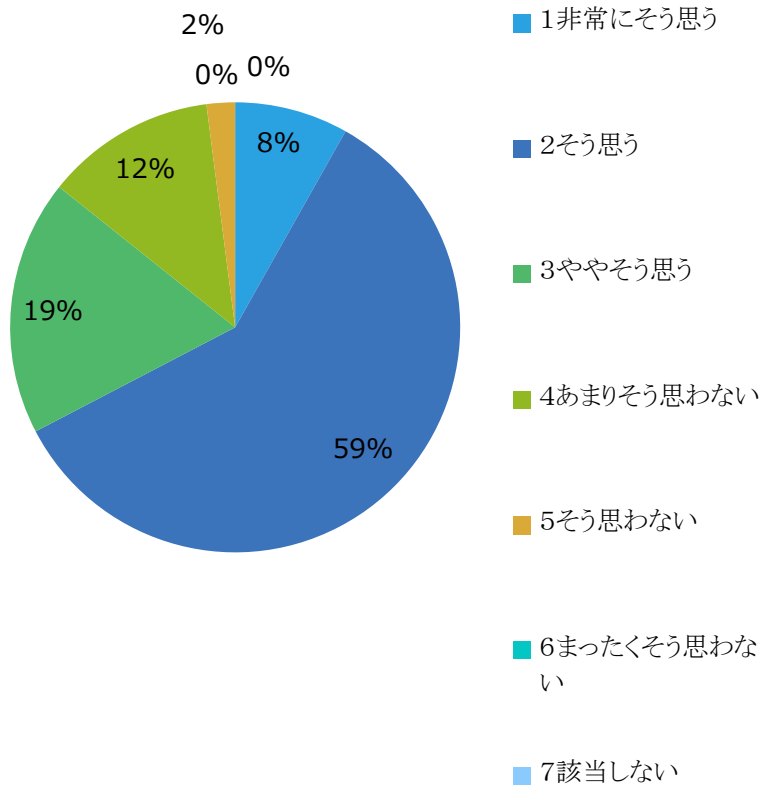


ご家族が健康を維持できるような
配慮がありましたか？

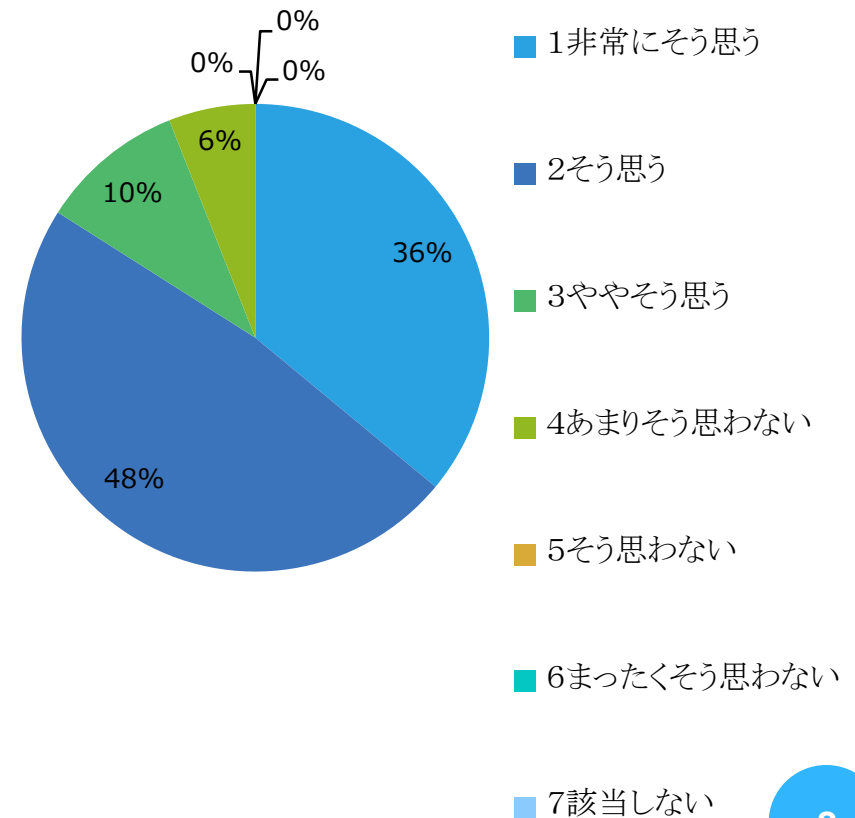


【患者さんが亡くなられた1か月以内に受けた医療の評価】

払った費用の金額は妥当だったか？



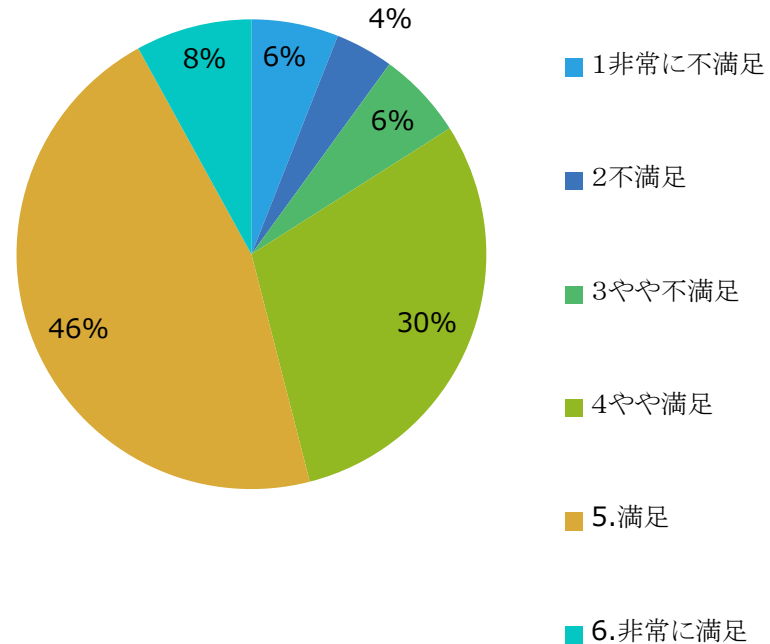
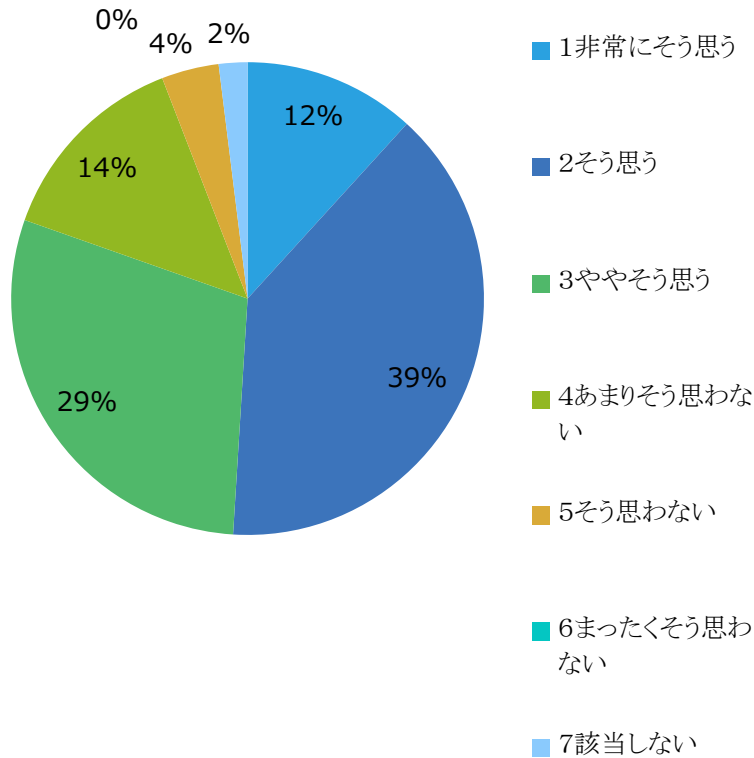
必要なときに待たずに入院できたか？



【患者さんが亡くなられた1か月以内に受けた医療の評価】

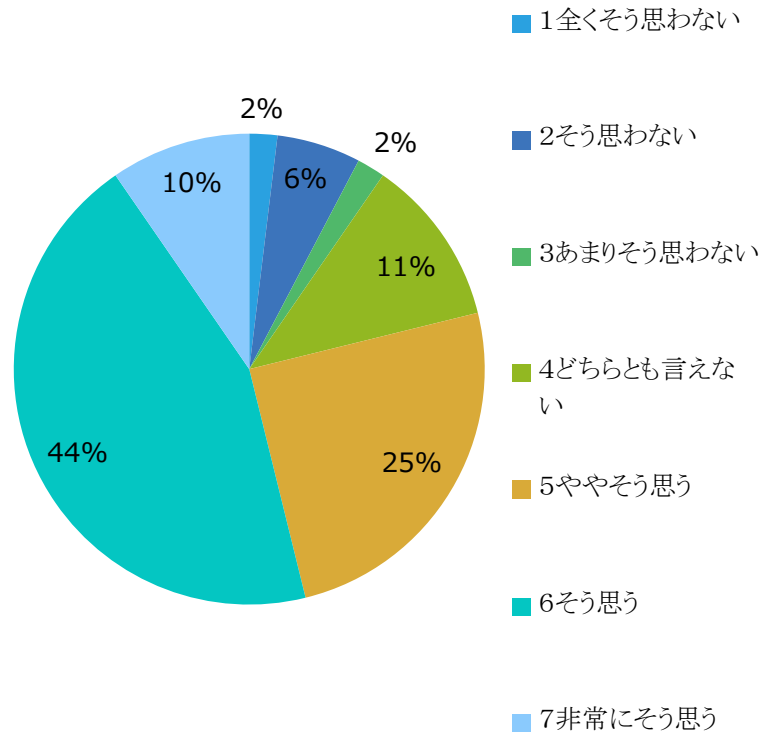
医師や看護師など医療者どうしの連携はよかったか？

全体的に緩和ケア病棟で受けた医療は満足でしたか？

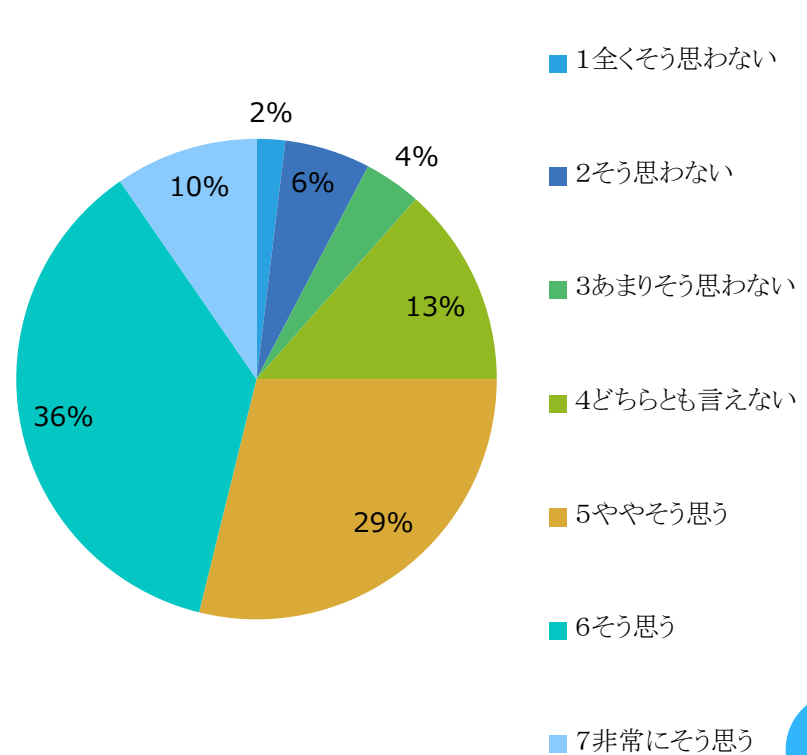


【患者さんが緩和ケア病棟における生活をどのように感じていたかという質問】

患者さんは痛みがなく過ごせましたか？

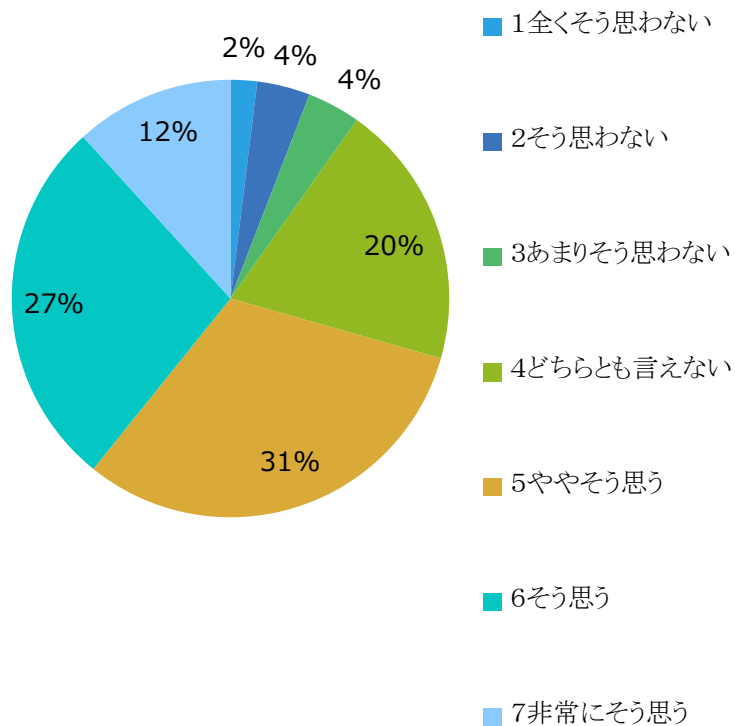


患者さんは体の苦痛がなく過ごせましたか？

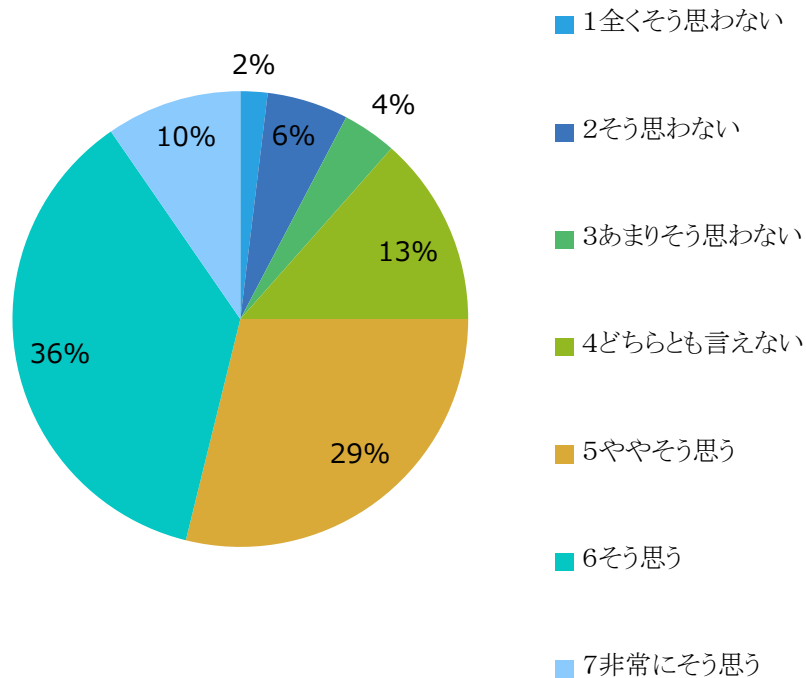


【患者さんが緩和ケア病棟における療養生活をどのように感じていたかという質問】

患者さんは、穏やかな気持ちで過ごせましたか？

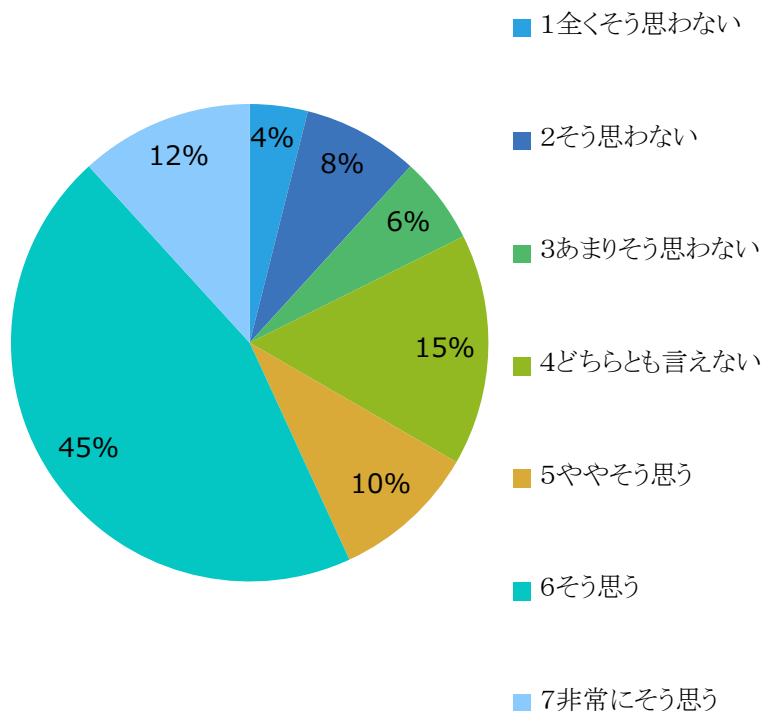


患者さんは、からだの苦痛がなく過ごせましたか？

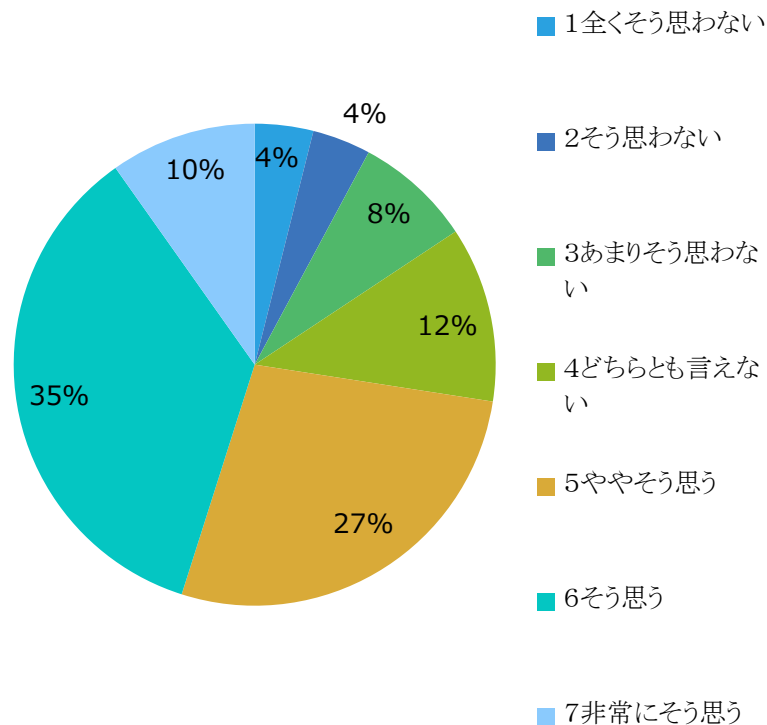


【患者さんが緩和ケア病棟における療養生活を どのように感じていたかという質問】

患者さんは、ご家族やご友人と十分に時間を過ごせましたか？

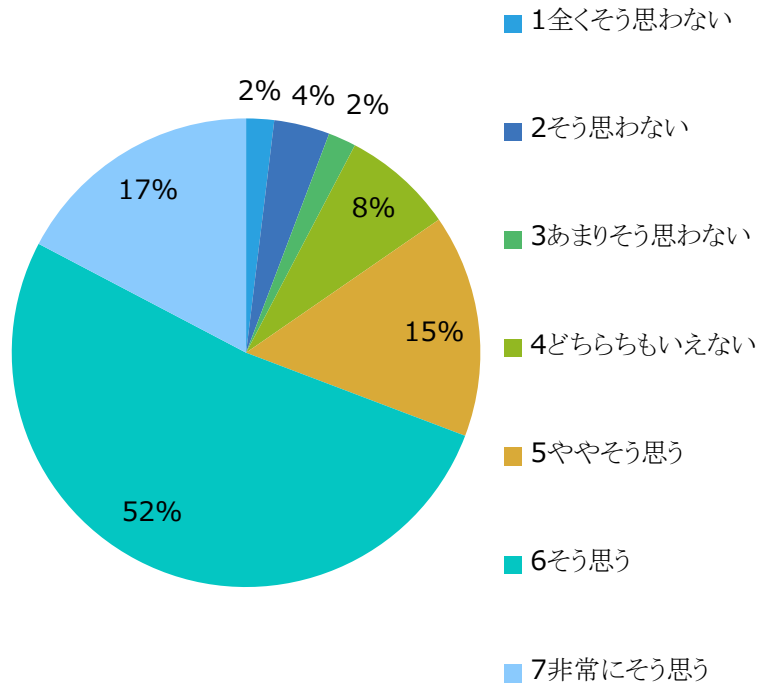


患者さんは、落ち着いた環境で過ごせましたか？

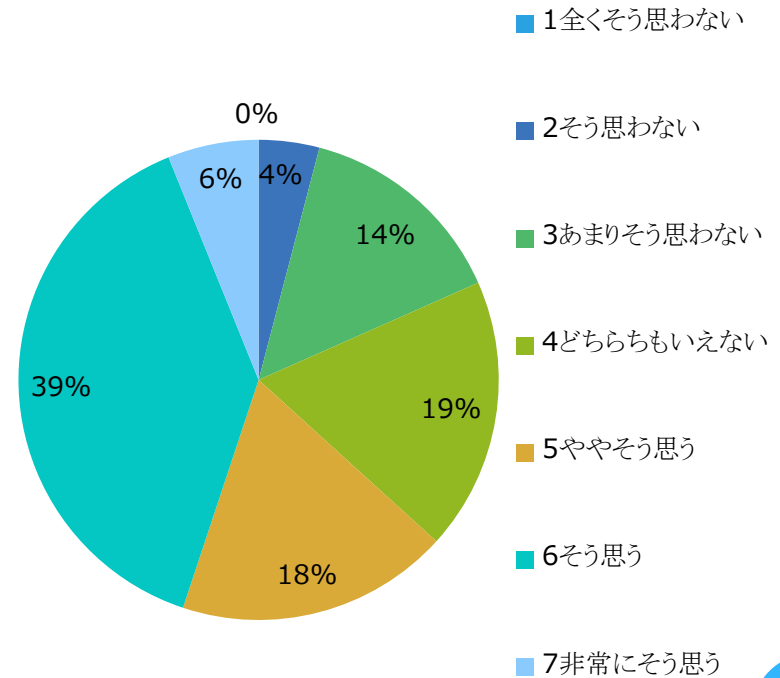


【患者さんが緩和ケア病棟における療養生活をどのように感じていたかという質問】

患者さんは人として大切にされて
いましたか？

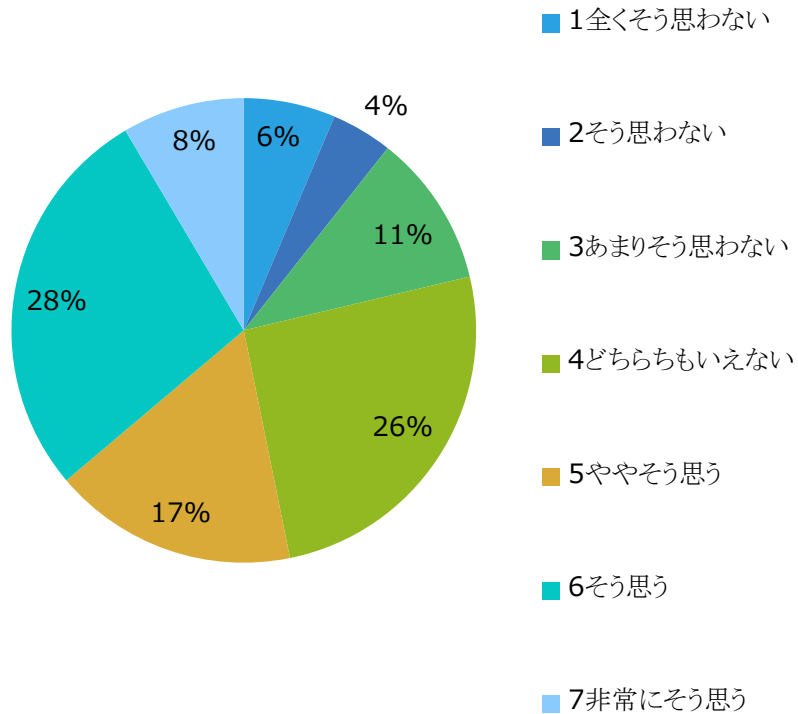


患者さんは自然に近い形で過
ごせましたか？

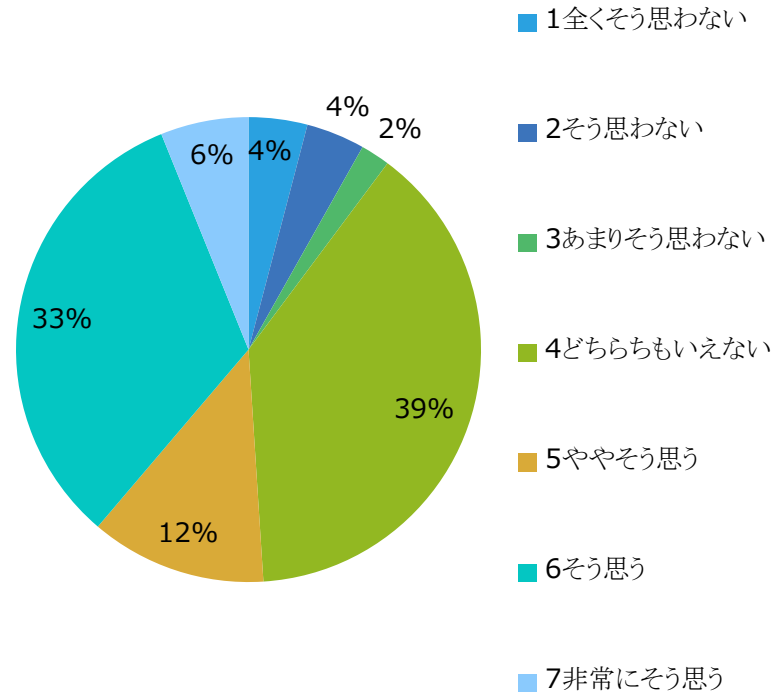


【患者さんが緩和ケア病棟における療養生活をどのように感じていたかという質問】

患者さんは大切な人に伝えたいことを伝えられましたか？

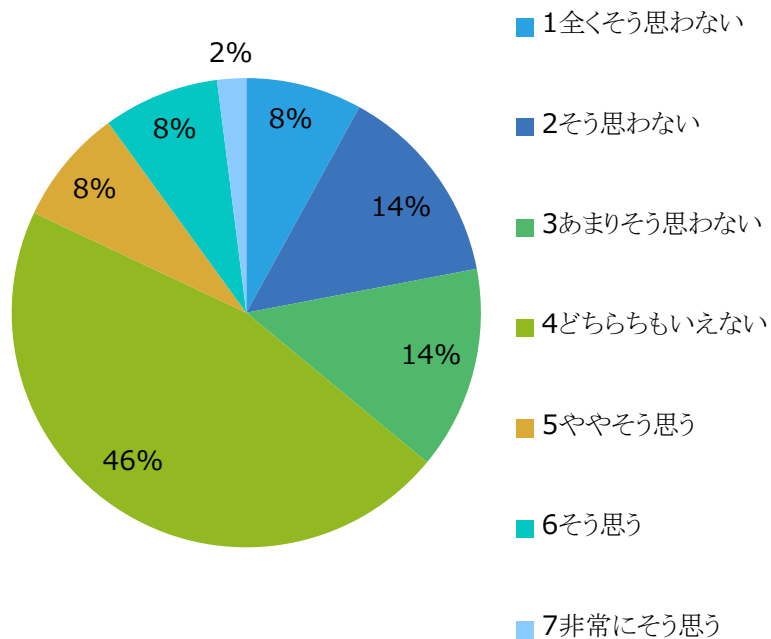


患者さんは先々に起こることを詳しく知っていましたか？

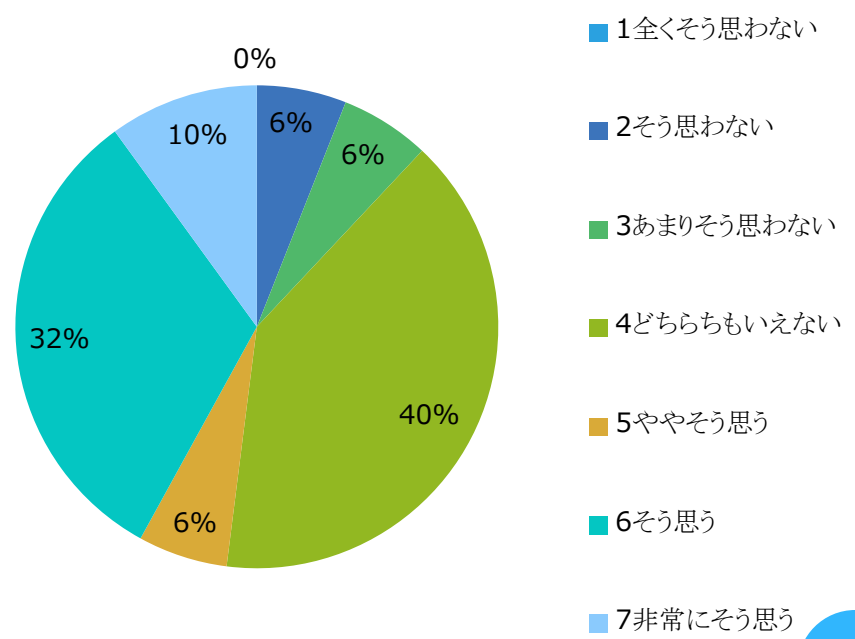


【患者さんが緩和ケア病棟における療養生活をどのように感じていたかという質問】

患者さんは病気や死を意識せずに過ごせましたか？

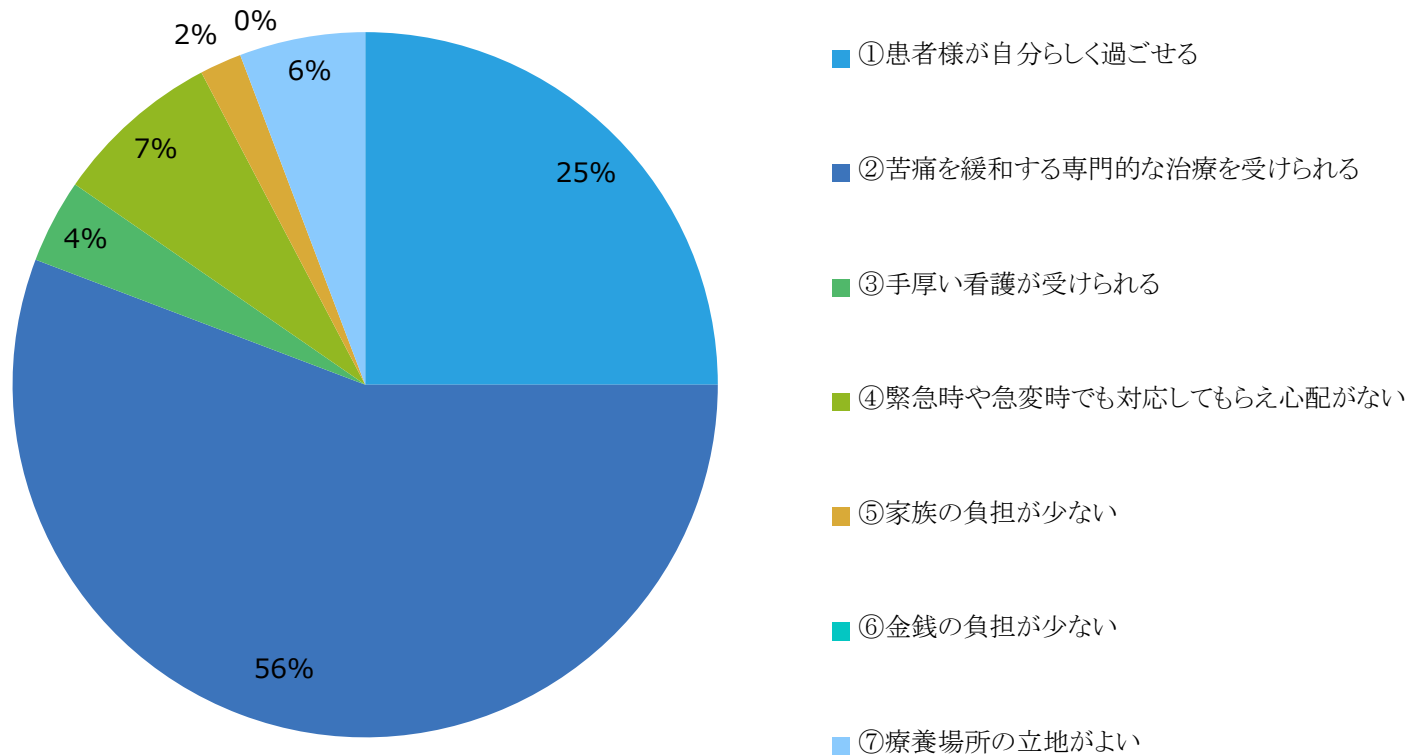


患者さんは生きることに価値を感じられていましたか？



【最期を過ごす場所として優先したことへの質問】

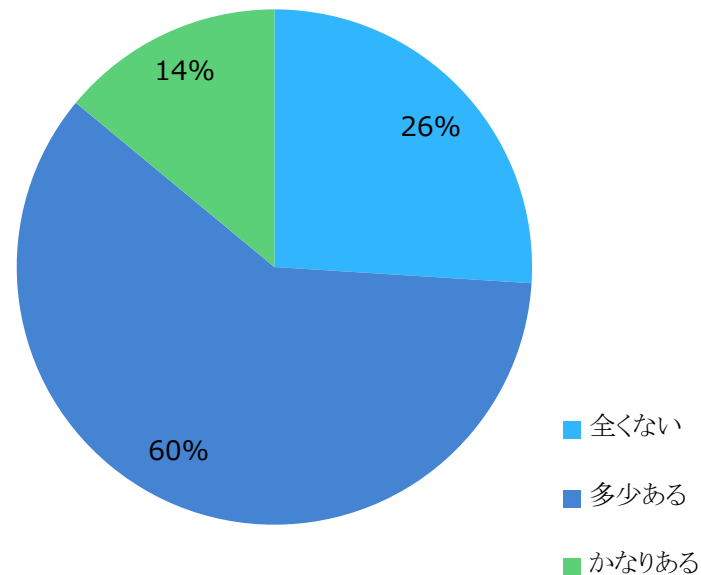
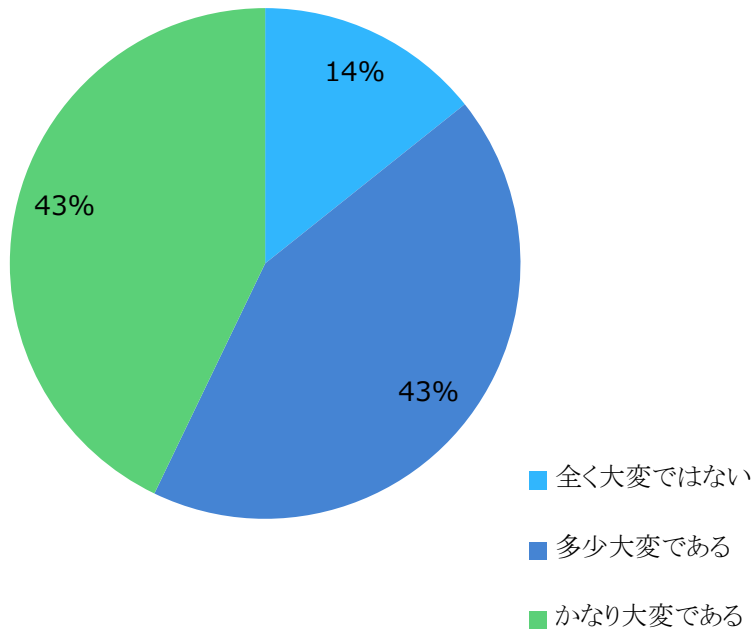
優先度1位



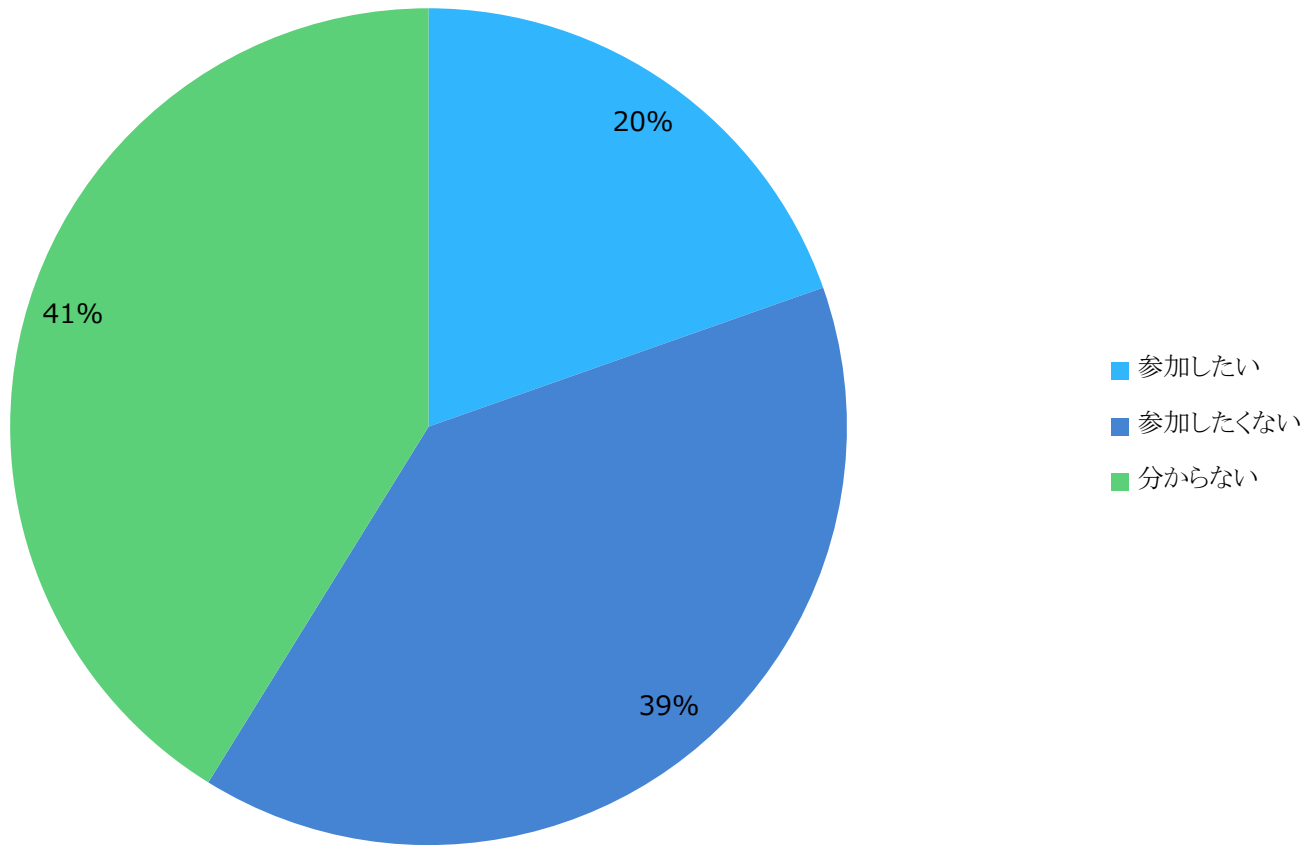
【ご遺族の方の悲嘆の状況について】

患者さんの死を受け入れることはどのくらい大変ですか？

悲嘆のために、今でも生活に支障がどのくらいありますか？



【遺族会への参加への質問】



【ご遺族からのご意見】

- 認知症を併発している者の家族にとって、夜の泊りや突然の呼び出しは大変だった。もう少し介護者とか看護者の人員があればいいと思った。3ヶ月で何も起きないと帰されるという不安があって複雑な気持ちでした。どういう状態でも最後まで居られるという安心があるといいと思った。緩和だけでなく苦痛を少し早く終わらせる医療があってもいいのではないかと考える。
- 患者や家族にとって緩和医療があることで随分救われたと思っています。是非これからもさんむ医療センターの緩和ケアが末永く地域に貢献されることを願っています。

- 入院して余命も多くないと知りながら、今までの長期の抗がん剤治療、手術の後遺症で痛みが大変で、CT、レントゲン等、採血検査が本当にどうして必要だったのか、何も治療はしないと
言われてるのに。緩和医療とは医療行為は行わないとは理解して
るが、寿命を余りに事務的に扱われている感じがする。
忙しいのはわかるが命の尊厳という事にもう少し深い理解を示し
て欲しい。まださんむは年数が浅いので他の地域の緩和医療の
良い所を患者サイドに寄り添って学んで欲しい。

- ここに入院する人はほとんど重篤な患者さんであると思いますが(そうでない人もいるのでしょうか?) 歯もみがいたり洗顔も(立つ事歩く事も出来ない)できないのに入院と同時に他の業者の「洗顔歯ミガキセット」など必ず契約させられ、全く使わなくとも入院日数分の請求書がきて余分な出費と強く感じた。業者からリベートをもらっているのでしょうか不自然です。これは任意契約にすべきです。他の人にこの病院の事、良し悪し問われたらどう答えるべきか迷います。

- お世話になりました。本人も家族も救われました。
ありがとうございました。
- 後日入院させて頂くよう予約しに伺った日、主人の調子が悪くなりそのまま入院させて頂くようになりました。その日に入院でき、本当によかったです。そして、痛み、息苦しさなど緩和して頂き、亡くなるまでよく面倒をみて頂きました。感謝しております。
- さんむのかんわケア病棟で手厚くお世話になったことを大変ありがたく思っております。苦しむことなく亡くなったので亡くなった後も私自身が後悔や苦しむこともなく、その後を過ごせています。先生、看護婦さん方本当にありがとうございました。見舞いに来てくれた親せきの人達もいい病院だねと言っていました。

- 改善が必要だと思ったことは看護師の方が少なく、とてもたいへんそうに 感じました。大丈夫なのかと少し不安になりました。父は急に余命をA病院で言われ、家族みんなどうしたらいいのかもわからず、そのなか、さんむ医療センターの緩和に入れていただき、とても助かりました。父も、家族に迷惑をかけたくないのではなく病院でみていただきたいと言っていて、うけ入れてもらえて喜んでおりました。A病院から転院し、自宅にも近かったので、うれしそうでした。先生、看護師のかたがたにはとてもよくしていただいたと思います。本当に感謝しております。

- 緩和ケアというのは、患者にもその家族にもとても必要だと思っています。心のケアもたすけていただいたと思っています。これからもつづけていただきたいと思います。助けられる、家族にとってとても不安がへります。うまく言えないのですが、本当にありがとうございました。
- 改善が必要だと思ったことは看護師の方が少なく、とてもたいへんそうに感じました。大丈夫なのかと少し不安になりました。父は急に余命をA病院で言われ、家族みんなどうしたらいいのかもわからず、そのなか、さんむ医療センターの緩和に入れていただき、とても助かりました。

- 父も、家族に迷惑をかけたくないので家ではなく病院でみていただきたいと言っていて、うけ入れてもらえて喜んでおりました。A病院から転院し、自宅にも近かったので、うれしそうでした。先生、看護師のかたがたにはとてもよくしていただいたと思います。本当に感謝しております。緩和ケアというのは、患者にもその家族にもとても必要だと思います。心のケアもたすけていただいたと思います。これからもつづけていただきたいです。助けられる、家族にとってとても不安がへります。うまく言えないのですが、本当にありがとうございました。

- 2人暮らしであったので緩和ケアにお世話になりました。毎日行くたびに声をかけてもらって元気になり毎日行くのが楽しみになっていきました。最期までよくつくしてもらいありがたかったです。ただ、ひとつ、これは時間があるので無理だと思いましたが食事のことですけど、一人で食べられなくなった時、ゆっくり食べさせてもらえるともう少し食べられたと思います。これは自分自身のことですけど、担当の方から今おちついているから家にかえられたらどうですかと言われた時に本人も帰りたかったらしいですけど、うごくことができないので私1人であったのでつれて来ることができなかつたのが残念だったといまでも悔やんでいます。もし、私のがんになったら緩和ケアにお世話になりたいと思っています。

- 自宅から近く、24時間会いにいけるという点では仕事をしている家族としては良かったが、やはり遅くなると行きづらい感じはする。食事に感じた事は、陶器の器を使用されていた事に自分は驚きました。病院の味気ないプラの器では嫌でも病院だと思わせられるのでこの対応は良かったかな。故人が「病院のご飯でおいしいと思って食べるのは昔入院した時以来で食事が苦痛にならない」と言っていました。(たくさん入院経験ありでいつもご飯がまずいと言ってあまり食べなかった)。食事の時「おいしいよ」と言いながらきれいに食べている姿に私はいつも驚いてました。

- 残念なことは、今後はどういう薬を使ってどうなっていくのか？ 亡くなる前にこそきちんと話をして欲しいと思います。患者、家族に対してのコミュニケーションが少ないですね。細かい事は多々ありますが、自宅近くに緩和があったのは良い事だと思います。病院なのでホスピスの様に。とは厳しいかと思いますが、できれば「病院臭さ」が少なくなればもっと患者にしてもプラスな気がします。またずにすぐ入院できたのも本人にとってはかなり精神的に安心した様です。これから先、患者さんがもっと増えても「またない」で入院できる場所であって欲しいと切に願います。

- 201x年y月z日が命日です。その節は本当にお世話になりありがとうございました。入院期間は7日間の短い期間でしたが、本当にやさしく親切にしてくださりとても安心出来ました。主人も、心穏やかに天国に行けたと思います。声にならない声で家族にありがとう！ありがとう！と口を動かしながら息を引き取りました。それまでの皆様の対応には心から感謝いたします。ありがとうございました！ただ、まだ〇〇から成東方面に行くことが出来ません。あの時期の気持ちがよみがえって胸が苦しくなります。本当にありがとうございました。
- 色々対応していただきありがとうございました。

- 日々苦しんでいる患者の為に、スタッフの皆さんこれからも頑張ってください。
- 主治医の判断で緩和ケア病棟に移されるのが早かった為、家族の精神的な負担が減り安心して最後までお世話になる事ができました。スタッフの皆様の対応にも感謝しております。有難うございました。
- お世話になりました。
- 看護師が注射をうってからあと1日か2日ですと言われた。私は死ぬ瞬間その場にはいなかった。注射をうつとき私に伝えてほしかった。あと1日2日でも生きられたのではないかと思っています。それが残念です。

- 急性期の病院(病棟)とは違う穏やかな雰囲気の中で過ごせたこと、夜間でも出入りさせていただけたこと、とても感謝しております。短い間でしたのでアンケートでは回答できないところもいくつかあり空欄にさせていただきました。人に迷惑をかけたくないとの思いで、ギリギリまで頑張っていた姿に母自身の思いを全うできたのではと思っております。様々な思いがあふれ、ただ書かせていただきましたが、失礼がありましたらお許してください。医療に従事される方々の心身のご健康を祈念し結びとさせていただきます。

- 人生最後の場所だと思うので出来れば個室であればと思います。
- 家から近くの病院であった為、毎日通う事ができ大変良かった。
(会話や日常のちょっとした談話等) 自宅からA病院経由さんむ医療センターの緩和ケアへ転院させて頂き、本人及び家族も安心できた。いろいろお世話になりました。
- スタッフ一同、誠心誠意をもって、患者(父)をケアしてもらい、痛みや苦しみを感ぜられなく一生を過ごせたと思います。
ありがとうございました。
- 緩和ケアだったから良かった。

- 亡くなる1か月前に入院したときは、4人部屋だったので回りの音や人の出入りが気になりなかなか寝られないと言っていました。早めに個室に移してもらえれば良かったかなと思いました。面会する人も増え、孫たちが来ると回りに迷惑になると気にするので、看護師さんから個室が空いたので入ったほうが気にしなくてすむのではと言ってくださったので、個室に入れていただきました。それからは、よく眠れたようです。看護師さんたちには手厚い看護をしていただきました。夏入院していた事もあり窓から見える朝がおの花が毎日咲いていたのを今でも思い出します。

- よかったこと、痛みが強く苦しそうな時、プロのスタッフが常駐しているということに私達はとても安心できた。改善と言うより要望、病室は一人部屋にしてほしかった。子供達兄弟等同室の患者さんに気を使い遠慮がちに見舞っていた。患者当人にも最後なら思いっきり話を聞いて会話がしたかった。スタッフから進行状態・余命等しっかり説明をしてほしかった。スタッフは皆さん忙しくて大変そうなので、私達のほうから質問したら迷惑かと思ひ、話をしていただけのを待っていました。緩和病棟は、ホスピスとは違うんだなと痛感しました。私の思い込みでした。後悔しています。

- 最後の夜等は、子供達も深夜に来たが、何もわからなかったため帰宅してしまいその後すぐに亡くなり誰にも看取られずに本当に悔しくて今思い出しても胸が締め付けられます。納得できていたらお別れも静かにできただろうに主人にも申し訳なく暮らしております。すべて運命をあきらめ亡き主人に感謝して3年生きてきましたが、このアンケートを記入することで又悔しさ申し訳なさが思い出され今胸が締め付けられそうで苦しいです。とにかく最後の別れに立ち会いたかった心の残りでございます。
- スタッフの方々は非常に親切で、ほうとうによかったと感じております。ありがとうございました。

- センターに東京の病院から移り言っていたことですが、まだ寒い季節だったのですが病室などの洗面所の水が
つめたくお湯がでない事に不満をもらしていました。
- 転居による郵便物の転送に不備があり返送が遅くなりまして
お詫び申し上げます。その節はお世話になりました。皆様の
手厚いケアにより患者自身と家族も安らかな旅立ちを迎え
ることができましたこと、心から御礼申し上げます。
ただ、その日の受け持ちチームにより心のケアに差があり、
本人が苦痛を訴えることがあり助手さんも含めて統一された
個々に寄り添うケアを実施していただきたく存じます。

- 家族の不安等も相談しやすい環境があるといいなと思いました。先生や看護師さんはお忙しいと思いますが。一時退院になった時も説明がなく、食事はどうしたらいいか、などとても不安になった思いがあります。急変し痛みが強くなり苦しんでいる状態でしばらく待たされた。良かったことは、亡くなった後、看護師さんと一緒に体をきれいにしてあげれた事です。その時の看護師さんの対応はとても温かく寄りそってくれました。

- いろいろお世話になりました。看護師さんのみなさんによくしてもらい本人は喜んでいると思います。このアンケートをいただき、当時つけていた日記を読み返して見ました。とても辛かったことは、最後の入院と時に新人の看護師さんに「家で世話をするのは大変ですか？」と質問されましたが、家で一人では困難だから病院にお願いしたいと思ったのに「このぐらい家でみる」と言われているようで当時は自分をせめていました。訪問看護に来ていただいた時の情報を病棟の看護師さんにもっと伝える事はできないのでしょうか。

- おかげさまで大変よかった最後を過ごせました。ありがとうございました。
- 入院中はお世話になりました。主人、家族ともに死期が近づいていることを忘れてしまうほど家庭にいるように、友人、孫たちに囲まれ過ごすことが出来ました。それ程、痛みもなく本人も幸せだったと思います。ただ、ひとつ気になったことですが、病室から他の病棟の室内が見え、本人はベットに寝たままでわかりませんでした。家族としてはふと外に目を向けると病室の様子が目にとまり、特に容態が急変したようなところがみえ悲しく思いました。その辺の配慮はどうなのでしょう。

- このアンケートは素晴らしいと感じています。妻はA病院で数ヶ月入院していました。付き添いも長距離であり、今思えば辛い毎日だったかもしれません。でも命の方が辛いということを実感しています。毎日、何をして挙げられるのか、どうしたらいいのか考える毎日だったように思い出します。Aでは、薬も弱めで妻も辛そうでしたが、山武では、緩和ケアの為強めにしていたように感じます。そのことで少し不満もありましたが、妻にとってはよかったと思います。お風呂にも入れてもらえて感謝しています。

【アンケートをうけての展望と改善点】

- お看取りに関しては、可能な限り間に合うよう、少しでも変化があったときには、ご家族へ連絡を入れるようにしております。また、重要な薬剤を使用する場合には、十分な情報提供をしていきます。
- ケア全体の再考としては、ご家族とのコミュニケーションを更に向上すること、ご家族のケアに力をいれるよう努力してまいります。
- 緊急入院は、かんわケア病棟に直接入院の場合のみ外来を経由することなく、受付から直接病棟に入院できるようにし、待ち時間がないようにしていきます。
- 遺族会に関しては、ご希望される方がおりましたので検討させていただきます。

*なお、ご意見をたくさんいただきましたが、個人を特定するような文章に関しては、記載することを控えさせていただいております。

【謝辞】

アンケートを送ってくださったご遺族の方、本当にありがとうございました。

スタッフ一同、ご遺族の意見を真摯に受け止めながら、患者さまおよびご家族の苦痛が緩和されるよう緩和医療の向上に邁進していきたいと思っております。

また、アンケートは沢山の項目について質問をさせていただいたため、公開させていただく内容は一部となっていることを御了承ください。

最後に、さんむ医療センターかんわケア病棟で亡くなられた患者さんの御冥福を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

担当者代表：看護課長 広瀬真紀子

